

敬語の使い方を考えよう



学年	小学校 5 年生
教科（授業内容）	国語（敬語）
情報提供者	葛飾区立清和小学校
学習活動の分類	B．学習指導要領に例示されてはいないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの
教材タイプ	ビジュアルプログラミング
使用教材	Scratch2（オフライン版をインストール）
コスト・環境	学校所有のパソコン 2 人 1 台利用
都道府県	東京都

学習活動の概要

● 単元や題材などの目標

相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解し、日常生活の中で進んで敬語を使って話したり、適切に使い慣れたりすることができる。

● 単元や題材などの学習内容

児童はこれまで、丁寧な言葉を使うことの必要性及び敬体や常体の違いを考えながら、書いたり話したりする学習をしてきている。

本単元では、さらに「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」の敬語の3分類の意味やその使われ方を理解し、相手と自分との関係を意識しながら、敬語を適切に使い慣れることができるようにする。また、単に知識として3分類の意味や使われ方を理解するだけでなく、その規則性や適応性を児童自ら追究していく活動を通して、深い学びにつなげていくことも大切にしたい。さらに、敬語は聞き手や会話の中に出てくる人などに対して敬意を表すための言葉であるため、敬語を使う際には、相手意識が必要である。実際に人との会話を通して身に付けていくことが望ましく、生活の中での具体的な場面と関連させて指導することも大切である。

このようなことから、本単元では、導入時に会話を想定した敬語の使い方を体験する活動を設定する。そして、対象となる人物や場면을複数体験しながら、その活動を通して知り得た敬語やその意味・種類や使い方の違いの存在に児童自らが気付いていくことができるようにする。その上で、3分類の正しい意味や使われ方を学ぶ時間を設定し、日常生活で活用する必要性を感じながら意欲的に学習に取り組むことができるよう展開する。

● プログラミング体験の関連

同じ相手や場面でも、敬語表現の正解は一つではなく、「丁寧語」で表す場合と「尊敬語」や「謙譲語」で表す場合がある。そのパターンも、場面や相手（条件）によって複数考えられる。例えば、話す相手を「大人」に設定した場合には、伝える内容の動作の主体が「目上の人」であれば、適切な敬語表現を用いる必要がある。しかし、伝える内容の動作の主体が「家族などの身内」であれば、へりくだった表現を用いる必要がある。また、話す相手を「同級生」に設定した場合でも、通常の会話では敬語表現は用いないことが多いものの、例えば同級生の前で発表する際には、伝える内容の動作の主体が「先生や地域の方などの目上の人」であれば、尊敬の意味の敬語表現を用いる必要がある。一方、伝える内容の動作の主体が「家族などの身内」であれば、へりくだった表現を用いる必要がある。このように、伝える場面や伝える内容の動作の主体に応じて、尊敬語や謙譲語の使い方を考え、適切に敬語を使い慣れていくようにすることが重要である。

本単元では、相手と自分との関係を意識しながら、敬語について理解し、日常生活の中で進んで敬語を使って話したり、適切に使い慣れたりすることができることを目標としている。その導入として、Scratch のプログラミング体験を学習に取り入れ、場面や人物を想定し、それらに合った敬語を選択することにより、児童自らが考え、その仕組みを発見できるように学習活動を展開していく。

まずは、学級全体で「家族以外の大人と電話で話をする場面」を例として、対話スクリプトのプログラミング体験をする。「今、（父・お父さん）は（いらっやいません・おりません・いません）。6時ごろに帰ると（言っていました・もうしてありました・おっしゃっていました）。」という会話において、適切な言葉を選択する。いくつかの組み合わせが考えられるが、ここでは、身内である家族について伝える際にふさわしい、へりくだった表現を選択していくこととなる。

次に、「好きな食べ物インタビューをした結果を、友達に報告する場面」を例として、ペアで対話スクリプトのプログラミング体験をしながら、相手と自分との関係を意識した適切な会話表現について考えさせる。ここでは、学級全体で学んだ電話での会話と同じように、身内である家族のことを伝える場合にはへりくだった表現を用いる一方で、先生や地域の方などのことを伝える場合には尊敬の意味の表現を用いるという選択をすることに気付かせていく。電話での会話の気付きをもとに、場面や相手によって使い方が異なるという敬語に対する新たな気付きを生み、さらに追究したいという意欲をもたせていくよう展開する。

Scratch のプログラミング体験を学習に取り入れることにより、どれが適切な敬語表現であるかすぐに理解することが難しい児童であっても、自分が入力した言葉の組み合わせにより相手の表情（イラスト）が変化していくこと、「たいへんよくできました・よくできました・もうすこしががんばりましょう」の3段階の言葉で判定されることから、選択した言葉が適切であったかどうかを即座に確認することができ、場面や話す内容（条件）に応じた敬語表現があることに気付くことができる。そして、どのような言葉を選択した際に、どのような判定であったのか試行錯誤をし、友達と共有することで、場面や相手によって選んだ言葉の意味や正しい使い方に気付かせていく。一定程度正しい敬語表現について理解している児童にとっても、ペアでプログラミング体験をしながら選択した言葉による判定の違いを考えていくことにより、敬語の種類の違いやその背景にあるものに対する理解が一層深まることにつながると考えられる。

学習指導計画

総時数 3 時間

時	主な学習活動
1	・「家族以外の人と電話で話をする場面」での対話スクリプトのプログラミングを体験する。 ・選択した敬語表現に対して示された評価を共有し、適切な敬語表現について気付いたことを発表し話し合う。 ・「好きな食べ物インタビューをした結果を、友達に報告する場面」での対話スクリプトのプログラミングを体験し、相手と自分との関係を意識した適切な会話表現について考える。（本時 1 / 3）
2	・前時で気付いた会話表現をもとに、「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」の3分類の存在を知る。 ・「丁寧語」「尊敬語」についての理解を深め、適切な会話表現について考える。
3	・「謙譲語」についての理解を深め、適切な会話表現について考える。 ・具体的な場面を想定し、敬語を適切に使い慣れる。

本時の学習（1 / 3 時間）

1）本時のねらい

相手と自分との関係を意識しながら適切な敬語を選択する活動を通して、敬語の役割や必要性を感じ、伝える相手や場面に応じた表現の違いについて考えることができる。

国語 [第5学年及び第6学年] 2 内容〔知識及び技能〕

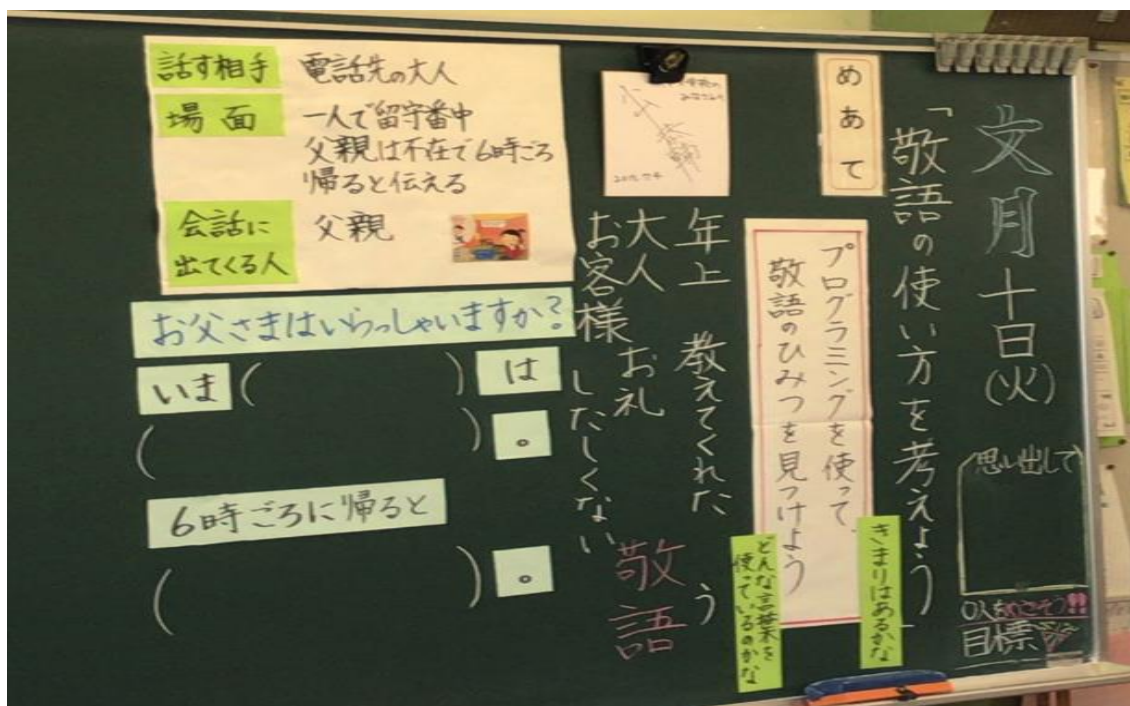
キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。

1. 日頃の言葉の使い方について振り返り、本時のめあてを確認する。



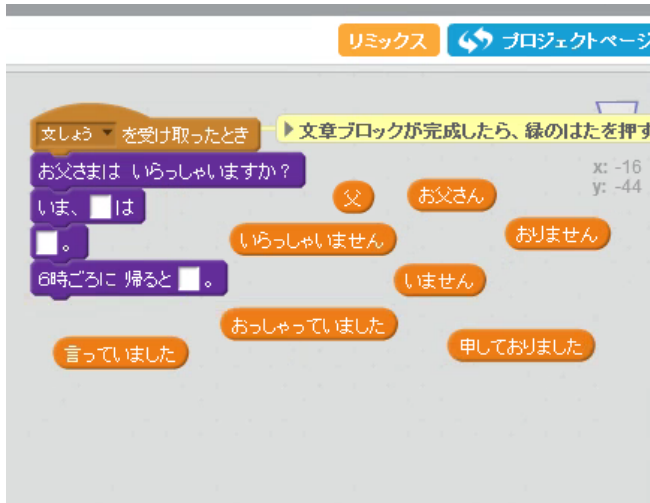
- ・本時が「敬語」について考える学習であることを知り、めあてを確認する。

「プログラミング」を使って、敬語のひみつを見つけよう



2. Scratch を利用し、「家族以外の大人と電話で話をする場面」での対話スクリプトのプログラミングを学級全体で体験する。

- ・大人から不在である父親に宛てた電話がかかってきたこと、その相手に父親が6時に帰るという状況を伝えるという場面を想起できるようにする。



- ・児童の意見を取り入れながら、教師のパソコンで操作方法を例示する。
- ・選択した言葉によって、相手の顔の表情が変化すること、適切な敬語表現であるかどうかの評価が3段階で表示されることを確認する。（たいへんよくできました、よくできました、もうすこしがんばりましょう）
- ・言葉の組み合わせと、その評価の結果をワークシートに記入することを確認する。
- ・ペアでプログラミング体験をする。



3. 体験した結果を発表し合い、気付いたことを共有する。



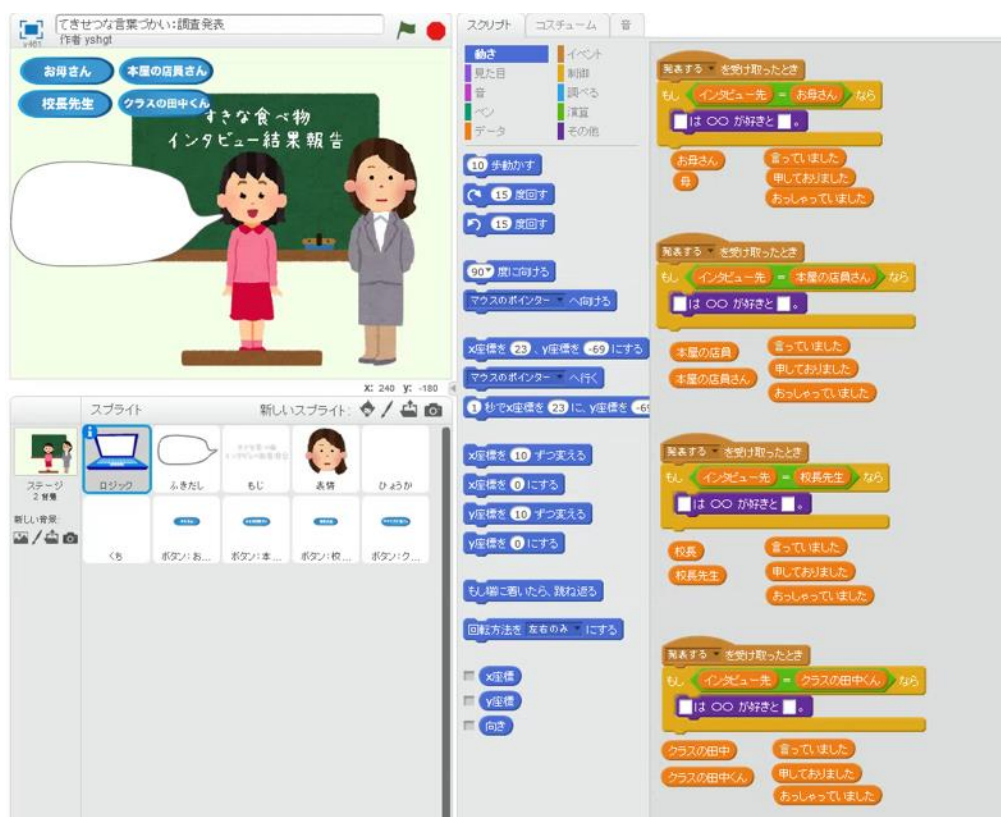
・組み合わせた言葉と、その評価を発表する。

・敬語の使い方について発表する中で、敬語は聞き手や場面、会話に出てくる人との関係などによって、使う言葉や使われ方に違いがありそうだとことに気付かせる。

4. Scratch を利用し、「好きな食べ物インタビューをした結果を、友達に報告する場面」での対話スクリプトのプログラミングをペアで体験する。



- ・お母さんや校長先生など複数の人物に「好きな食べ物」をインタビューした結果を、クラスの仲間に報告する場面を想起させる。

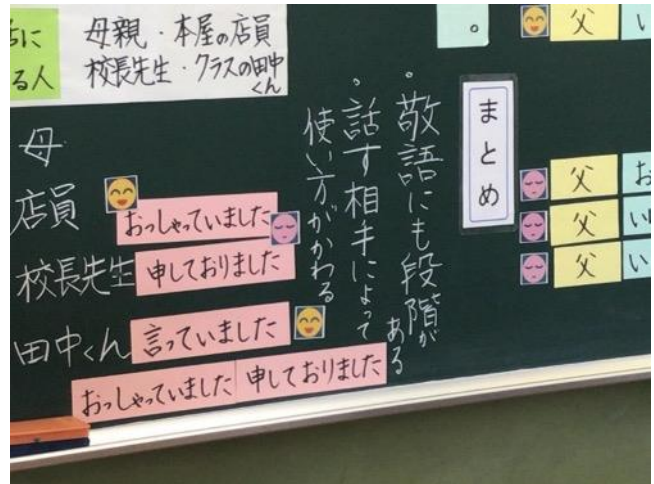


- ・選択した言葉によって、相手の顔の表情が変化すること、適切な敬語表現であるかどうかの評価が3段階で表示されることを確認する。（たいへんよくできました、よくできました、もうすこしががんばりましょう）

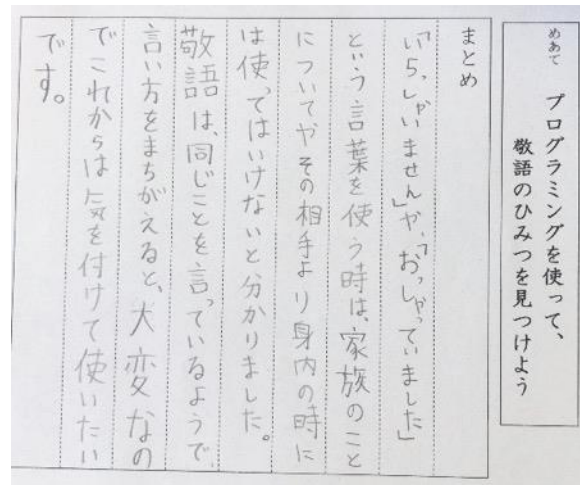
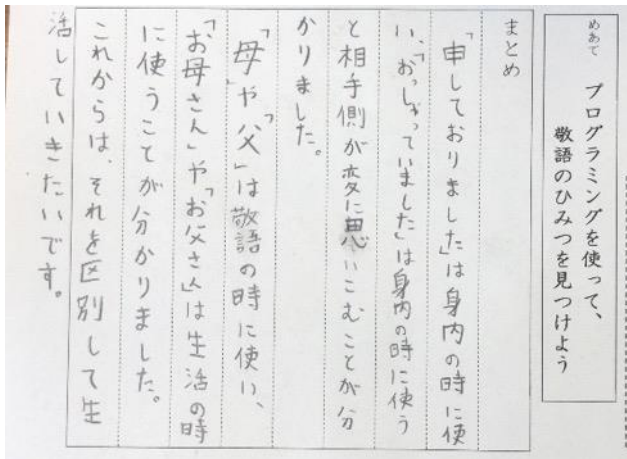
- ・ペアでプログラミング体験をする。



5. 体験したことを基に、本時の振り返りをする。



・本時の学習を基に気付きの視点を確認しながら、振り返りをワークシートに書く。



・敬語の特徴に関する気付きをいくつか紹介し、次時には、さらに追究していくことを確認する。

